

タイトル:平成 24(2012)年度 教育セミナー

日時:平成 24 年 9 月 14 日(金)～17 日(月・祝)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「『預言者の医学』の特徴と現代における普及」

岸本 聖美(東京外国語大学大学院博士前期課程)

私は東京外国語大学外国語学部を卒業し、そのまま現在の大学院に進学したいいわゆる「内部進学者」です。そのため、学部時代から中東☆イスラーム教育セミナーの存在は学内のポスターを通して知っており、「どんなことをやっているのだろう」と興味と憧れを持ち続けてきました。なので、今回このセミナーに参加してかねてよりの念願を叶えられたことを大変嬉しく思いました。

セミナーでは聴講だけでなく、受講者発表もさせていただきました。事前ガイダンスで「受講者発表は後々の研究に大変有益なので、後で『やれば良かった』と言う人もいる」というお話を聞いたので、「せっかく参加するのなら」と思い切って発表を希望したのですが、セミナーが始まって他の受講者の方々の発表を聴いているうちに、自分の発表内容とのあまりの違いに恥ずかしくなっていました。学部時代からのやり方のままにレジュメも用意していたものの、それには要旨や参考文献の項目などが足りておらず、研究発表というからには、きちんと形式に則った内容のあるものにしなければいけないのだということ深く心に刻みつけました。肝心の発表も緊張のあまり時間を余らせてしまい、散々な結果だったと自分では思っております。ですが、先生方や受講者の皆さまから沢山のご意見・ご質問を受けたことで、今まで指導教官の先生とゼミの仲間に見せる程度だった私の研究に、新たな視点を備えることができ、結果としてはとても有益なものとなりました。個人的には、他の論文や文献を調べて「間違いないだろう」と確信していたある植物の和名を高松先生にあっさり訂正されたことが大変印象的で、「資料をそのまま鵜呑みにしてはいけない」という研究の原則を改めて理解いたしました。

先生方の講義内容は自分の専門とは遠いものが多かったのですが、その分「中東やイスラームをこんな側面から研究できるのか!」という発見や新たな知識を得ることができました。また、単純に内容に対する興味を持っただけでなく、自分の研究を先生方のように発表できるまでにしたい、もっと内容を深めたいという思いをますます強めました。講義外の時間でも、先生方の博覧強記ぶりをご自身の研究に対する熱意に触れたことも、私の研究に対するモチベーションを高める一因となりました。

4 日間のセミナーを通し、自分の未熟さを知り、「これからどうするか」に対する指針を得られたことは、かけがえのない経験でした。これからもこのセミナーで得た教訓を活かして、研究を進めていきたいと思っております。

講師の先生方、受講者の皆さま、そしてセミナー中に色々とお手伝い下さった事務局の千葉さまに、心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。